函館山の麓、西部地区からまちづくりを考える

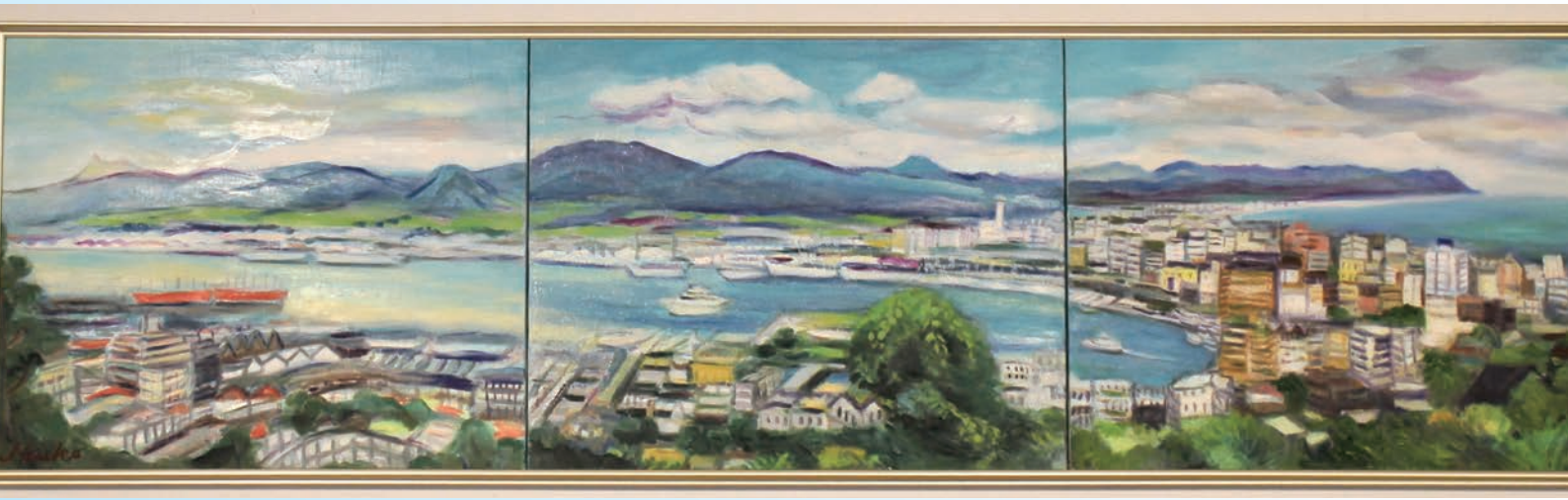
はこまち通信 クーポラ

2020.1
vol.51

みんなの力で、良い一年にしていこう！

まちづくりセンターからのお知らせ

3月30日（月）は臨時休館日です。



伊藤 郁子氏「弥生町より函館港を望む」センター1Fで掲示しております。どうぞご覧下さい。
2F、3Fにも展示しております。詳細はコチラ▶

Contents

新春企画
函館市西部まちぐらしデザイン室 …P2

市民活動団体のご紹介
NPO法人 ナルク函館はまなす

まちセンとSDGs …P4

スタッフ連載ページ
『先輩に聞いてみました!』 …P5

クーポラ便り
配布先･問い合わせ先 …P6

センター長 丸藤の
『今 伝えたいこと』 …P7

INFO & TOPICS …P8

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

●まちづくりセンターで行われている講座案内や市民活動団体などの詳細は、ブログやホームページで公開中です。
●まちづくり、市民活動、各種助成金、移住･定住に関する問い合わせなど、お気軽にご相談ください。

発行／函館市地域交流まちづくりセンター
http://hakomachi.com

函館市西部まちぐらしデザイン室の
おふたりにお話をお聞きしました

西部地区の課題を「自分ごと」に

市民とともに
まちをデザインして
いきます
室次長 **長谷山　裕一** さん

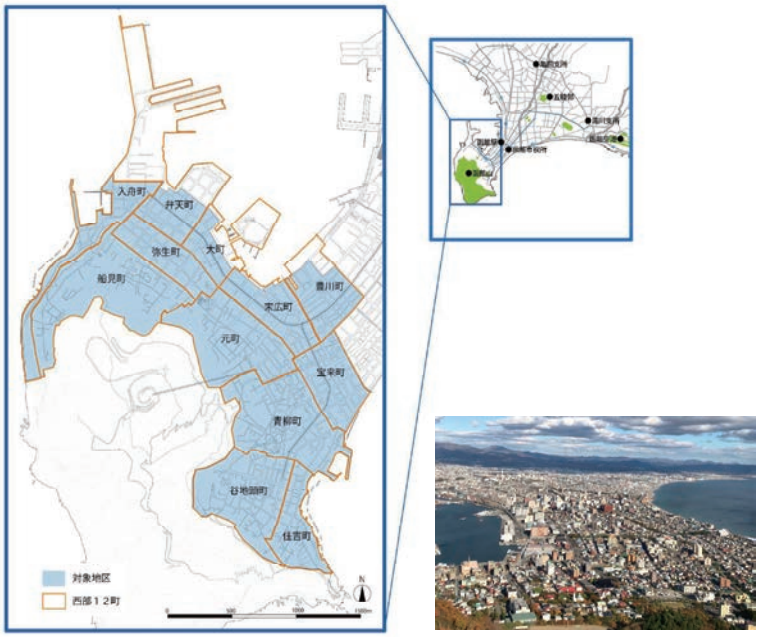
行政がやるべき部分
にも力を入れて
いきます
室長 **小柳　博之** さん

一緒に
「ワクワクするまち」を
目指していきましょう
当センター長 **丸藤　競**

昨年10月、函館市都市建設部に設置された「**函館市西部まちぐらしデザイン室**」。人口減、高齢化社会など課題を抱える西部地区（マップ参照）に新たな風をおこすべく奮闘中のおふたりに、設置にいたった背景や、掲げるプロジェクトについてお話をうかがいました。

［対象地区］
入舟町、船見町、弥生町、
弁天町の一部、大町の一部、
末広町の一部、元町、
青柳町、谷地頭町、住吉町、
宝来町、豊川町の一部

「函館市西部まちぐらしデザイン室」 ☎0138-21-3357（函館市都市建設部まちづくり景観課内）

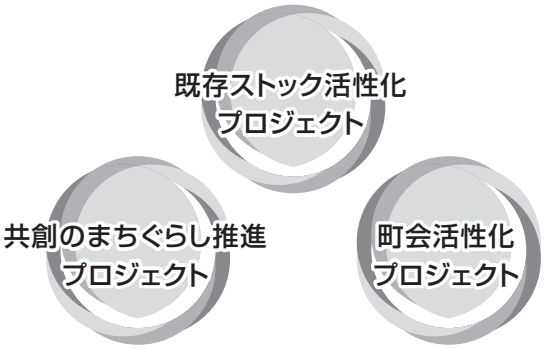


（丸藤）**設置のきっかけや目的は何でしょうか。**

函館市が市民の皆さんから意見や提案をいただきながら策定した「函館市西部地区再整備事業基本方針」に基づき、各種事業を推進するために設置した組織です。基本方針では、「**西部地区ならではのまちぐらしの実現**」を将来像として掲げており、具体的には、空地や狭小宅地などの不動産の改善のほか、まちづくりの担い手育成のためのワークショップの実施、職員が町会の活性化に関わるなど、あくまで『人』を中心としながら、市民と共にまちをデザインしていきたいと考えています。（小柳さん）

3Pへ続く▶

将来像の実現に向けて、
函館市西部まちぐらしデザイン室が掲げる3つのプロジェクト



（丸藤）まちづくりに「デザイン」の概念を取り入れた新組織の誕生を、とてもうれしく思います。
まちづくりセンターと連携できることはありますか。

まちづくりセンターにおじゃまして、改めてこの建物の魅力に気付くことができました。丸藤センター長が目指す『まちづくり』についても、わたしたちのプロジェクトと符合する部分が多いことが分かりました。この対談を機に、今後ともよろしくお願いいたします。（長谷山さん）

（丸藤）こちらこそよろしくお願いします。最後に市民の皆さんにメッセージをお願いします。

「地域の安心･安全を高める」という、行政がやるべき部分にもこれまでどおり力を入れながら、みなさんと対話を重ね、西部地区の課題を「自分ごと」として捉えていきます。市民が楽しく暮らせるまちを目指して、ともに悩み、考えていきましょう。（小柳さん）

センター長 丸藤より

「高齢化、人口減がすすむ西部地区の課題に取り組むことは、函館の他の地域、他の都市でも役立つはずです。処方箋や特効薬を見つけたい」と力強く語るおふたりから、地域が抱える課題を「自分ごと」として受け止めていることが伝わってきました。本日はお越しいただき、ありがとうございました。

まちづくりセンターは2007年のオープンより市民活動、まちづくり、地域コミュニティ、情報発信、観光、地域包括ケアとの連携、移住定住などを推進し、西部地区の課題と向き合ってきました。この空間やノウハウを『西部まちぐらしデザイン室』のみなさんにもぜひ活用してもらいたいです。一緒に『ワクワクするまち』を目指していきましょう。

活動団体

市民活動団体のご紹介

会員募集中！
共に活動してみたい方は
気軽に各団体に
お問い合わせください。

～支えあい　助け合いの輪を全国に～

NPO法人 ナルク函館はまなす

サークル活動も活発です。
女性の参加も多い『健康麻雀』。

全国に110拠点展開するボランティア団体で、ニッポン・アクティブライフ・クラブの頭文字から、通称『NALC』『ナルク』として活動しております。本部は大阪にあり、1994年設立。会員数は約16,000人で、道内には11拠点あります。函館の事務所は電車通り沿い『堀川町』電停の近くにあり、入会の問合せ等に応じています。

会員は『自立・奉仕・助け合い』をモットーに、自身の経験や資格、趣味等を活かし、福祉や子育ての支援、地域のボランティア活動などに取り組みます。会員同士の助け合いでサービスを提供することにより、活動1時間当たり1点の預託点数が付与され（時間預託活動）、自分が困ったときは点数を引き出してサービスを利用することができます。生きがいを見つけたい方や、将来に不安を感じている方は、お気軽にお問い合わせください。

●NPO法人 ナルク函館はまなす　　代表者／阿部 功　　事務局長／中村 仁
会員数／180名（函館・鹿部・七飯・北斗・その他の地域を含む）
設立／1998年　　年会費／3,000円（夫婦でも単身でも同額）
住所／函館市千代台町12-19　　電話／0138-31-2048　　Mail／nalchakodate@mx31.tiki.ne.jp
HP／http://nalc.jp

団体設立のきっかけや
活動内容などの
詳細はまちセンHPで
http://hakomachi.com

まちセンとSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

10/12（日） SDGsカードゲームを実施しました

詳細はコチラ▶

定員を上回る多くの方々にご参加いただきました。刻一刻と制限時間が迫るなか、地球のためにどう行動すれば良いのか。課題を『自分ごと』としてとらえるこのゲームを通して、世界をグッと身近に感じることができたのではないでしょうか。アンケートにもたくさんのご意見、ご感想が寄せられました。ありがとうございました。

このイベントを一過性で終わらせることのないよう、まちづくりセンターは2020年もSDGsの啓発活動に力を入れてまいります。持続可能な社会の実現に向けて、函館で暮らす私たちにもできることがあります。ともに一歩を踏み出してみませんか。

講師に高橋 優介氏をお招きしました。

9/28（土）～9/29（日） 函館蔦屋書店のイベントに参加しました

『SDGs～誰ひとり取り残さない、ライフスタイルの提案～』（北海道国際交流センター主催）に、まちづくりセンターも参加しました。日頃はセンターでお客様をお迎えし、啓発活動をしておりますが、このように一歩外に出てみることで、違った視点でみなさんとSDGsについて語りあうことができました。

詳細はコチラ▶

『自分ができること・必要だと思うこと』を、
ふせんに書いていただきました。

スタッフより一言／災害の備えについて学ぶ「冬の防災講座」を2/15（土）に開催。詳しくはP8へ（榎本）

まちセンスタッフ谷口の

先輩に聞いてみました! vol.3

函館南更生保護女性会 会長
大町町会 女性部長　石畑 明子さん編

NPO法ができて20年がたちました。函館において、市民活動・まちづくりを一生懸命に活動してきた先輩に、大事にしてきた思いや考えなどを聞きました。まちづくりに関心のある方、これから活動してみようという方へお届けできれば幸いです。

クリスマスしおりづくりに参加した石畑さん（左）と大町町会のみなさん（まちづくりセンターにて）

町会役員や在宅福祉委員、民生委員、更生保護女性会などで活動している石畑明子さんに、活動を始めるきっかけや活動を続けてきて感じたこと、今後について聞きました。

活動のきっかけ

子どもが学校に入り、PTAに入ったことがボランティア活動の始まりですね。その後、班長として、町会を手伝うようになりました。10年以上班長を続け、町会の推薦を受けて50代半ばに民生委員になり、75歳で定年を迎えました。民生委員になった同時期に、更生保護女性会に入会し現在も活動中です。

活動を続けて

町会では、みんなが集える場所・機会として、先生を呼んで、体操や麻雀、カラオケ、書道教室などを開催しています。一人暮らしの方が多いので、集まったみなさんの体調はどうかな?変化ないかな?とお互いに気にかけていますね。11月は児童館の子どもたちと餅つきをして、世代を超えて交流しました。

更生保護は保護司さんが中心となり、女性会が活動をサポートしています。いわば車の両輪で、流行語になった「ONE TEAM（ワンチーム）」で活動しています。裁判の傍聴をはじめ、再犯防止の合同研修会を開催しています。毎年バザーを開催し、刑務所に本や花の苗を寄贈するため、みなさんの協力を得ています。

ボランティアを続けていくことで、いろいろな人に出会い、今日の活動につながっています。また、家族の理解や支えがあり、とても助かっています。

これから

次世代にバトンタッチできるように、若いみなさんに協力してもらっています。周りの人に"そろそろ役員をやめてもいいのでは"といわれているけれど、後継者が育ってから引継ぎしたいと考えています。今は2020年に函館で渡島管内の更生保護女性会の大会があるので、その準備に奔走しています。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

身近な存在の町会活動、更生保護女性会などの活動について話してもらいました。地域の安全、犯罪のないまちづくり、いろんな人との出会いがあり現在の活動につながっているということを聞くことができました。

住みよいまちをみなさんでつくっていきましょう。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

町会は、地域住民が相互に連携を保ち、「自らの手で住みよいまちづくり」を目標に防犯、交通安全、防災、青少年の健全育成などの諸問題に対し、積極的な取り組みを行っています。

更生保護女性会は、地域の犯罪予防や更生保護に協力するボランティア団体です。函館市に5団体（東・西・南・北・南茅部）あり、250人が活動しています。

谷口 真貴 たにぐち まさき

函館に住んで6年。2013年4月より、スタッフに。
現在、函館の人たちに夢中になっています!!

※この連載は全4回です

1F 喫茶コーナー cafe DripDrop

●営業時間／10:00～18:00 ●定休日／水曜日・施設休館日
●自家焙煎、ハンドドリップのコーヒーで一息つきませんか?
お店のSNSで最新情報を発信してますので、
お得な情報をゲットしてみてください。

【オススメ】ブレンドコーヒー　350円

1F 福祉の店 どんぐり 2号店

●営業時間／10:00～16:00 ●定休日／土日祝日・施設休館日
●授産製品を扱っています。函館みやげにオススメの
クッキーをはじめ、布バッグや布ぞうりなどの
ハンドメイド雑貨も豊富です。

【オススメ】土偶ッキー　680円

カフェは1月4日（土）まで休み、1月5日（日）は15：00まで。どんぐりは1月13日（月・祝）まで休み、1月14日（火）より通常営業となります

クーポラ便り

まちづくりセンター取り組みの一部をご紹介します

●インターネットによる情報収集と発信に継続して取り組んでおり、スタッフブログは毎日更新中です（年末年始などの休館日はお休みです）。Twitter、Facebookでもブログ情報を連動して発信しておりますので、アカウントをお持ちの方はお気軽にフォローをお願いします。このほか移住サポートセンターからのお知らせ、まちづくりセンターで行われる催しのお知らせ、まちづくりセンターで定期的に実施中の講座一覧のページもございます。HPをどうぞご活用ください。

●悪天候等により函館山ロープウェイが運転を見合わせた場合、館内で掲示しております。運転見合わせや運休の連絡が入り次第、電車通り側の正面入口にてご案内しますので、お出かけの参考にしてください。

●スタッフのスキルアップに力を入れております。北海道立道民活動センター主催による養成講座をはじめ、市内外のさまざまな講座やセミナーに参加しております。養成講座の報告についてはブログをご覧ください。▶

●2019年10月の消費税増税に伴う施設料（会議室・多目的ホール・貸しブース等）の値上げはございません。

●2019年11月に、まちづくりセンターのリーフレットを更新しました。施設利用をご検討の方や、建物の歴史に興味をお持ちの方は、どうぞご活用ください。▶

配布先・問い合わせ先

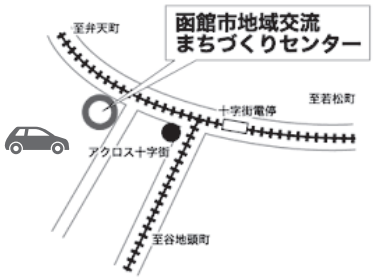
『はこまち通信クーポラ』2020年1月 vol.51
次号は3月31日発行予定です（年4回）

発行／函館市地域交流まちづくりセンター
住所／〒040-0053 北海道函館市末広町4-19
TEL／0138-22-9700
FAX／0138-22-9800
開館／9:00～21:00
休館日／12月30日～1月3日
3月30日（月）臨時休館日です
http://hakomachi.com

このほか器材点検のため月１回程度、臨時休館する場合があります。詳しくはセンター内やWebでお知らせしています。

建物裏手に駐車場あり。
２時間まで無料。

指定管理者／
NPOサポートはこだてグループ
（2007年４月～）



『はこまち通信クーポラ』編集室だより

「まさかは必ずやってくる」といわれ、災害に対する準備の大切さを北海道胆振東部地震で実感しました。停電時や冬季、非常持出物、避難の方法や場所などを確認し備えてみませんか?

（編集長／谷口 真貴）

●主な配布先（敬称略）
函館市役所1F／亀田支所／湯川支所／銭亀沢支所／戸井支所／恵山支所／椴法華支所／南茅部支所／函館市中央図書館／渡島総合振興局／函館市企業局アクロス十字街／総合保健センター／函館アリーナ／函館市女性センター／函館市青年センター／函館市公民館／函館コミュニティプラザGスクエア／函館市青少年研修センターふるる函館／中島れんばいふれあいセンター／函館市総合福祉センターあいよる21／函館市勤労者総合福祉センターサン・リフレ函館／どさんこ交流テラス（東京 有楽町）
取材に協力くださったみなさま、施設等

『はこまち通信クーポラ』に関するご意見、ご感想をお寄せください。ご住所、お名前、お電話番号を明記の上、メール info@hakomachi.com まで

センター長 丸藤の「今 伝えたいこと」

「支援」の形を考える

まちづくりセンターのような存在を、“支援センター”と言うことがあります。各地域で活動しているNPOなどの支援をするからです。

それでは「支援」とは何なのでしょうか?

辞書には、「金銭や労力などの面でその活動や事業を助けること。」と書かれています。しかしこれは、私たちが目指している支援の姿とはちょっと違います。活動に対してのお金の支援はともすれば権力性を持ってしまう恐れがありますし、労力の提供についても、災害直後の後片付けのように必要な時はもちろんありますが、ただ単に面倒くさい部分をやってあげるだけではその組織の成長を妨げてしまうかもしれません。相手から「成果があった」と思ってもらえてこそ、意味のある支援になると考えます。

先日受講した研修会でNPO組織強化コンサルタントの河合将生さんは、一緒にいてくれて良かったという「安心感」が大切だと話して下さいました。代理でやってあげるのではなく、「伴走」するという意識を持つべきだということです。伴走し対話していくことで、相手が内側から変化していく。それを信じて待つことが必要だと。確かに、刺激は外から受けますが、変化は内側から起こります。時間はかかりますが、いったん自分から変化することができれば、後の展開は早くなります。

ただ、支援する側にスキルがないと、対話も、信じて待つことも、適切な変化に導くこともできませんし、人間的な魅力がなければ安心感を与えることもできません。変化の速度も、不安感も増していく中で、良き伴走者になるためには…新しい年になっても、じっくり考えていきたいと思います。

『はこまち通信クーポラ』の【クーポラ】とは?

教会などの屋根上部に取り付けられた、半球系の構造物を指します。

1923年に建てられた旧丸井今井呉服店函館支店をリノベーションし、2007年にオープンした函館市地域交流まちづくりセンター。その外観を印象づける『**クーポラ**』を広報誌でも使用しております。

丸藤 競 ラジオ情報

80.7MHz

函館のコミュニティラジオFMいるか

『週刊まち日和』

パーソナリティ

毎週土曜12:30~13:00

(インターネットでも聴取可)

スタッフより一言／【開催御礼】12/25終了の「クリスマスしおり作り」を体験されたみなさま、楽しんでいただけましたか？(櫻田)

クーポラ INFO & TOPICS

11/12（火） まちセン茶論（サロン） 番外編

移住者と市民の交流の場として、毎月開催しています。今回は番外編として、船見町にある「ティーショップタ日」に行ってきました。移住希望者が参加し、移住者の体験談を聞きました。普段とは違う雰囲気でおおいに盛り上がりました。

救命講習会 10/23（水）/ 11/17（日）

2017年10月より講習会を毎月開催して、2年が過ぎました。突然、心臓や呼吸が止まってしまった人がいたらどう対応しましょう？講習会で体験して、いざという時に備えましょう。参加無料ですので、お気軽にご参加ください。

※次回は1/18（土）
2/29（土）です。

9/27（金） はこだてカルチャーナイト2019

主催：函館商工会議所青年部

スタッフ操作による手動式エレベーターのご案内や、スターバックスによるコーヒーテイスティング（試飲）もありました。建物のライトアップも実施。過去最高の606人もの方が夜のまちセンを楽しみました。

冬の防災講座「災害伝言ダイヤル体験」 2/15（土）

災害が起きた時の安否確認の一つ「災害用伝言ダイヤル（171）」の模擬体験を行います。メッセージの録音方法や伝言内容など利用方法について学び、災害に備えましょう！参加費無料・お持ちの方は携帯電話をご持参ください。

詳細はコチラ▶

10/24・25（木）（金）/ 11/20・21（水）（木） 移動サービス運転者講習

一人で公共交通機関を利用することが困難な方の移動手段の一つとして、福祉有償運送があります。障がい者や要介護者の通院や買い物等への移動を支援します。自家用車にて活動できることが特徴です。空いている時間を活用したい方や運転が好きな方、ボランティアとして活動したい方などが講習会に参加し、運転者資格を取得しました。

函館市では、福祉有償運送対象者が3万人以上います。今後も運転者を養成し、移動困難者を地域で支えていき、移動に困らないまちをみなさんでつくっていきましょう。

お申し込み・お問い合わせ：函館市地域交流まちづくりセンター ☎0138-22-9700